

11月になり、東京2020オリンピック・パラリンピックまであと260日あまりとなりました。メディアでは出場を目指す選手たちの涙と歓喜の感動の闘いが連日報道されています。

坂出市でも去る9月にハンガリーのカヌーチームが府中湖カヌー競技場で事前合宿を行うとともに地元選手と温かい交流を持ちました。

さて、前回から連載が始まった「偉人たちのあしあと」第2回は坂出が誇るバレーボール選手（後監督）の小山勉氏です。

小山氏は1936（昭和11）年生まれ、坂出東部中学校から坂出商業高等学校に入学し、1953（昭和28）

年に開催された全国高等学校選手権大会にチームの要として出場、全国優勝に導き、その後2回の優勝の礎を築きました。

関西学院大学進学後も1956（昭和31）年の初優勝に貢献、その勢いは58年、60年の優勝へと続いていきます。

大学卒業後は実業団に所属してここでもチームの全国制覇に貢献、全日本男子チームの一員に選出され、1964（昭和39）年の東京オリンピックに出場を果たしました。

そこでは当時強豪国だったソ連、チェコ、ルーマニア等と激戦の末、銅メダルを獲得、「東洋の魔女」と称された女子チーム（金メダル）とともに日本のバレーボール王国を築きました。

引退後は、実業団チームの監督に就任し、実業団チームは1983（昭和58）年から87（昭和62）年にかけて日本リーグ5連覇を達成しました。

オリンピック関連では、1972（昭和47）年のミュンヘンオリンピックで強化委員として金メダル獲得に貢献、その後全日本監督に就任しました。1976（昭和51）年のモントリオールオリンピック（4位）、1988（昭和63）年ソウルオリンピック（10位）では日本代表チームを率いました。

その後、日本バレーボール協会の専務理事等を務め、2012（平成24）年75歳で惜しまれつつ亡くなりました。

その人柄は穏やかで後輩思い、その激励に奮起した選手も多かったそうです。今では当たり前ですが、指導の際も絶対手を出さず、言葉と自分のプレーで教授、今でも多くの人から慕われています。

普段あまり話題に上らない方ですが、香川の、日本のバレーボール界発展に力を尽くされた小山氏、坂出市立体育館2階の「坂出市スポーツの殿堂」の展示コーナーにその足跡が記されています。ぜひ足を運んではいかがでしょうか。

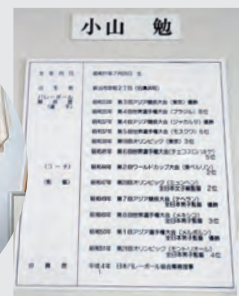
写真：坂出市立体育館／坂出市体育協会設立50周年記念 思い出のスポーツ写真集（平成9年12月24日発行）



こやま つとむ
小山 勉



第18回東京オリンピック銅メダルの立役者小山勉氏の歓迎祝賀会（昭和39年・うつばや大広間）



編集後記

かつて、坂出市は塩田や港とともに栄え、活気にあふれるまちで、人口も多い時には約68,000人もの人々が暮らす豊かなまちでした。

都市計画においては、商店街に人溜まりを作るために三差路を多く造ったと聞いています。なるほど、先人はどうすれば商店街が賑わうのかを一生懸命に考え知恵を出し、まちづくりに力を注ぎ、また、番の州臨海工業団地が竣工すると同時に人口が増えはじめ、現在の坂出があるのだと思います。

今、全国的にも少子高齢化は深刻な問題ではありますが、市民の皆様の声に応えるべく、人口増対策や住みよいまちづくりのため、議会としても真剣に取り組んでいきます。

（鳥飼）

広報広聴委員会 委員長……植原 泰 副委員長……茨 智仁
委員……丸岡豊和 東原 章 鳥飼年幸
寒川佳枝 若杉輝久 野角満昭

次回開催は…
12月定例会を12月上旬
に開催予定です。

